

C A M B O D I A

## 授業実践報告

高校での  
取り組み

# 「カンボジアの 今を知ろう」



コンボントム州サンコー小学校の子どもたち ©田中正夫

### 報告の ねらい

ユニセフの活動の理解、募金の使われ方の把握、大学受験における小論文対策（途上国における日本の役割の理解）

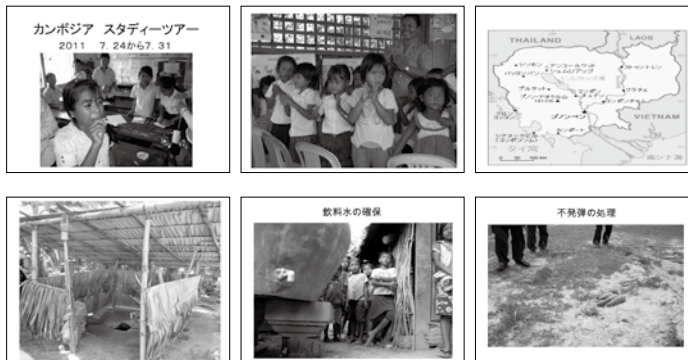
### 対象

高校1年生理科数科（1クラス）  
高校2年生普通科（2クラス）  
高校3年生普通科（2クラス）  
校内教員研修

### 学習活動 の流れ

- ①各教室にて、パワーポイントによる  
スライドショーの実施
- ②カンボジアの概況の説明後、質疑応答
- ③生徒の感想、今後の課題の発見

### パワーポイントによるスライドショー



現地の写真を使ったスライドの一部

### 感想と質問

- **1年生（理数科）**
  - ・不発弾が、カンボジアにはなぜ多いのか？
  - ・ポルポト政権って何ですか？
- **2年生（普通科）**
  - ・ポルポト政権のような独裁政権がなぜ、誕生したのか？
  - ・今でもカンボジアで戦争が起きているのか？
  - ・飲み水は、雨水以外に確保できないのか？
  - ・日本の子どもと髪の毛の色が全然違う。
- **3年生（普通科）**
  - ・アンコールワットのイメージが先行していたが、カンボジアの国内の事情について、何も知らない。
  - ・何も報道されていない。なぜ、ユニセフはカンボジアを支援しているのか？
  - ・他に、ユニセフが支援している国はあるのか？
  - ・カンボジア国民の今の暮らしは、どうなっているのか？
  - ・日本政府はカンボジアなど途上国にどんな支援をしているのか？
  - ・カンボジアって怖いイメージがあったが、戦争が終わっていることを知った。
- **教員研修**
  - ・飲み水やトイレはどうしていたのか？
  - ・地雷処理のイメージしかなかったが、不発弾処理と聞いて驚いた。
  - ・私(教頭)も途上国に何度か行ったが、子どもたちのキラキラした瞳の輝きは、どこも同じだ。日本の子どもたちにはこの輝きは残念だが、ない。



・名前は知っていたが、興味がなかったユニセフの活動をもっと知りたい。

### スタディーツアー報告の感想

スタディーツアーでの写真を中心に、パワーポイントでスライドショーを実施しながら、説明をしていきました。生徒に、ユニセフの活動を知っているかと訊ねたところ、ほとんどの生徒が、「募金」と「途上国の支援」と答えてくれました。特に、小学生のときのユニセフ募金のイメージが広く浸透しているようでした。そこで、カンボジアについて知っているかと訊ねたところ、高校生であっても、カンボジアの位置や歴史、なぜ支援が必要なのかの知識はほとんどありませんでした。これは、高校生が学ぶ現代社会や世界史A、Bの教科書の進度上、9月の時点ではそこまで進んでいないこと、途上国についての記述が極めて少ないこと、国内での東日本大震災の報道が大きく取り上げられ、世界での出来事にまで見聞きする場面が少なかったこと等が挙げられるのではないのでしょうか。

また、特徴として、高校1、2年生では、トゥースレン博物館の悲惨な拷問風景の描写や不発弾の処理に関する感想や質問が多かったのに対して、高校3年生では、なぜカンボジアに支援が必要なのか、ユニセフがその他にどのような活動をしているのか等、深い内容の質問に、私自身、答えるのに困った場面もありました。高校3年生にとっては、大学受験における小論文対策のきっかけになった

かもしれません。

今後、写真の内容を変えながら、来年度の学年でもユニセフのカンボジア支援の報告をしていこうと思います。



授業のようす ©田中正夫

### 今後の課題

- ・途上国の現状を知るための方法、報道がされていないので、積極的に自分たちで情報を見つけていきたい。
- ・カンボジアについて、もっと調べていきたい。
- ・募金を集めること以外に、何ができるのか考えていきたい。